

2019年5月1日
現勢2,792名
前月比-26名
2,815名(1/1付)

小平東村山

発行所
東京土建一般労働組合
小平東村山支部
小平市仲町381番地
電話 042-342-2846
FAX 042-342-2848
発行人 川口 直明

組織増勢を勝ち取る一年

～後継者育成の進展と群活動対策を具体化へ～

第3回定期大会

4月21日(日)小平市福祉会館にて第3回定期大会を代議員90名、特別代議員5名の計95名の参加で開催しました。また大会には、本部や多摩北ブロック各支部、共闘団体や地元議員など計30名の来賓の方々が参加しました。支部結成から4年目を迎え、『後継者発掘・育成とともに、組織減少を食い止める運動を勝ち取る』というメインスローガンのもと、さらなる飛躍を目指すことを確認しました。

【新役員については2面参照】



気持ちを一つに団結ガンパロー

今回の大会の議長団には、美園分会の藤原分会長と柳瀬分会の後藤書記長が選出されました。また、大会担当役員は新井副委員長、準備委員長は山内常任が務めました。大会当日は統一地方選挙の投票日と同日となりましたが、地元議員などをはじめ多くの来賓の方々の参加がありました。

今回の大会の議長団には、美園分会の藤原分会長と柳瀬分会の後藤書記長が選出されました。また、大会担当役員は新井副委員長、準備委員長は山内常任が務めました。大会当日は統一地方選挙の投票日と同日となりましたが、地元議員などをはじめ多くの来賓の方々の参加がありました。



各表彰が贈られた

今回の大会では、本部および分会より選出された組合員の表彰が行われたほか、アスベスト原告団である村山大和支部の吉田さんから代議員へ協力の訴えがありました。大会終盤では、新役員を選出、そして『庶民を苦しめる消費税10%への増税に断固反対していく』という大会決議案の採択がされました。

分科会

大会の午後、部では、専門部・各会ごとに5分科会に分かれ、活発な議論を行いました。ここでは、特徴的な意見・発言について紹介します。

◆第1分科会(賃金・組織・学習制度化)
設計労務単価は10年間で1万円以上あがっているが、自分たちの賃金には反映されていない。パワハラ・セクハラ問題も、明確な基準がなく、現場レベルでは仕事がつらい。

◆第2分科会(税対・教宣・厚文)
駅頭宣伝の参加者が減少傾向にあるので、誰でも参加できることを現在より呼びかけていく必要がある。

◆第3分科会(技術・財政・主婦)
今年4月から建設キャリアアップシステムの本格運用が開始されたが、実用面ではまだ未知数で、不安なところがある。

◆第4分科会(職域・後継者・青年)
町場の工務店が減って若い人材も大手へ流れており、自分で仕事を探さない人が増えている。

◆第5分科会(労対・社保・けやき)
労使間のトラブルを防ぐための学習会の開催や、厚生労働省に対してフルハーネス型安全帯の導入に伴う補助制度の確立を求めている。

◆第6分科会(ハカキ要請)
国・都へのハカキ要請に関しては、土建国保に対する補助金を確保するために必要不可欠なものであり、今後も組合員に対しては地道に理解を求めていくと思う。



自身の税対部員としての経験を語る西田さん(写真中央)

群会計は、組合員の家族の協力で成り立っている。

「うれしくない」と回答した人は41%に達し、年齢別では30代で46%、40代で45%と働き盛りの世代が約半数にも及ぶ。サービス業や運送業もそうだが、建設業も大手を除く現場は通常通り仕事する話を多く聞いた。かくいう私も工期に追われ、金土日の3日間しか休めない。本音は10日間休みたいたいが、休んでいる間は収入がなく、そのうえ遊びに行くとお費がかさむ。安倍首相をはじめとする閣僚は、5億円もの血税を使って外遊ラッシュと聞く。私たち労働者は国内旅行すらままならないのに呆れてしまう。GWに休めないで、週休2日で生活できる賃金になっ

組合員の皆さんは「うるせくない」と回答した人は41%に達し、年齢別では30代で46%、40代で45%と働き盛りの世代が約半数にも及ぶ。サービス業や運送業もそうだが、建設業も大手を除く現場は通常通り仕事する話を多く聞いた。かくいう私も工期に追われ、金土日の3日間しか休めない。本音は10日間休みたいたいが、休んでいる間は収入がなく、そのうえ遊びに行くとお費がかさむ。安倍首相をはじめとする閣僚は、5億円もの血税を使って外遊ラッシュと聞く。私たち労働者は国内旅行すらままならないのに呆れてしまう。GWに休めないで、週休2日で生活できる賃金になっ

用水路

組合員の皆さんは「うるせくない」と回答した人は41%に達し、年齢別では30代で46%、40代で45%と働き盛りの世代が約半数にも及ぶ。サービス業や運送業もそうだが、建設業も大手を除く現場は通常通り仕事する話を多く聞いた。かくいう私も工期に追われ、金土日の3日間しか休めない。本音は10日間休みたいたいが、休んでいる間は収入がなく、そのうえ遊びに行くとお費がかさむ。安倍首相をはじめとする閣僚は、5億円もの血税を使って外遊ラッシュと聞く。私たち労働者は国内旅行すらままならないのに呆れてしまう。GWに休めないで、週休2日で生活できる賃金になっ

多様な要求を対話の材料に

目標達成へ向けて



春の仲間づくり月間



支部出陣式で全分会に協力を訴えた飛田新組織部長

【増田邦彦 組織担当書記】

4月より春の仲間づくりキャンペーンが始まりました。2019年は1年間で大きく3つのラウンドに分けて取り組み、各ラウンドでの成功をつかみ年間実績を勝ち取ることを目指しています。とりわけ、春一

番から春にかけての第1ラウンド(1~5月)を重点とし、昨年の目標から0.5%を上乗せした挑戦が始まっています。春は「新たに従業員を雇用して健康保険・厚生年金・雇用保険の加入が必要になった」「独立したので労災保険に加入したい」など変化の多い季節でもあります。東京土建では、こうした手続きに関して総合的に相談が可能で、また、今年の2月の義務化によって話題となっている「フルハーネス型

安全帯の特別教育」について、支部では6月に講習会を開催(2回)し、組合員の要望をサポートします。

各分会では、毎週木・金を基本に訪問行動を実施しています。訪問行動に参加できる方は分会役員までお声掛け下さい。

参加できない方も未加入のお仲間の情報などをお寄せ下さい。東京土建では、明るい建設産業の未来を開くために様々な運動を取り組んでいます。一人一人の小さな力も集まれば千となり万となり大きな山を動かす力に変わります。

その為、仲間を増やして組織を大きく育てる取り組みは、東京土建にとって欠かせないものではないかと、役員の間で話されています。

残りは1ヶ月を切りました。力を合わせて目標達成を掴みましょう。ご協力の程、よろしくお願います。

ながら楽しんでいけるようにがんばっている。次世代の役員の発掘も大事なことが、何でもいから新規組合員の活動参加を促していきたい。役員だけの組合活動とならないように、そして役員の負担が軽減できるようにしていきたい。

年に一度は必ず受診! 春の健康診断

下記の日程で健康診断を開催します。建設業従事者向けのアスベスト関連の無料健診は東京土建だけです。お申し込みは群会議などで配布されている指定の申し込み用紙を提出してください。FAX送付先(東京土建小平東村山支部):042-342-2848

- みその診療所**
- 5月26日(日) 〆切:5月20日(月)
 - 6月16日(日) 〆切:6月6日(木)
 - 7月7日(日) 〆切:6月27日(木)
- 北多摩生協診療所**
- 6月30日(日) 〆切:6月20日(木)
 - ※女性健診を実施
 - ※託児所の設置あり

最終盤へ向けラストスパート



2019年度 支部役員一覧

執行委員については、各分会の分会長および書記長があたります。

執行委員長	井上 清一	(小 川)
副執行委員長	小平 隆男 新井 信道 飛田 重夫 関田 眞	(小 川) (柳 瀬) (柳 瀬) (南)
書記長	石塚 一広	(小平東)
書記次長	山下 正徳 奥田 八志 増田 邦彦 近藤 祐樹	(直属・書記) (直属・書記) (直属・書記) (直属・書記)
常任執行委員	谷口 庄一 川口 直明 山内 勝行 染矢 憲広 内藤 俊幸 三輪 剛	(花小金井) (一ツ橋) (一ツ橋) (上 宿) (野火止) (南)
常任執行委員待遇	川島 謙	(小平東)
青年部長	佐々木 美代子	(一ツ橋)
主婦の会会長		

小川分会



安立 孝章 通信員

あだち・たかのり
2010年組合加入
現在は小川分会の副
分会長を務める

組合とは頼りになるものである。組合は時として重い荷物に感じられる時もある。頼りになっていない組合員も多数いる。大多数の役員さんはそう思っているのではないかと。私が所属する小川分会は、地域的に建設業にた

ずさわっている職人が少ないというわけではないが、看板を掲げて商売している件数は少ない。問題がないわけではないが、役員の間で話されている。問題がないわけではないが、役員の間で話されている。問題がないわけではないが、役員の間で話されている。

ながら楽しんでいけるようにがんばっている。次世代の役員の発掘も大事なことが、何でもいから新規組合員の活動参加を促していきたい。役員だけの組合活動とならないように、そして役員の負担が軽減できるようにしていきたい。

みんなで支える組合活動を

分会の長所を活かしていく

徳川家康の人生訓に『人生は重い荷物を背負って、ゆっくり歩く旅人のごとし』というものがあ。重い荷物をみんなで分擔して抱え、一人一人の荷物を軽くしてゆっくり歩いていきたいものだ。